

# 連珠っておもしろい

## 九段 河村典彦

### ● 第79回 ●

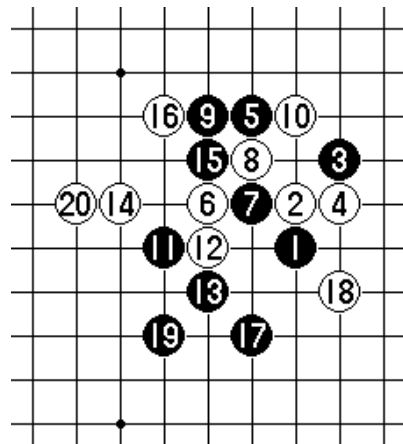
### ■ TV出演

6月8日、TBS「水曜日のダウンタウン」で「わんこそば十五目並べ」の二種混合競技が放送され、その番組に中村名人以下5名が登場した。連珠の普及に役立ったかはわからないが、単純に面白かった。五目並べの力より、早食いの力の方が大事なのは考えてみれば当たり前で、連珠家がいればだけのために呼ばれるのは少々もったいない気がした。まあ少しでも連珠の認知に役立てばいいかと考えるしかない。

丸田四段がいじられていたが、我々は連珠以外は素人だからいじってもらえない。TVに映ると少々実物とは違うのがわかった。おそらく実際はいろんな場

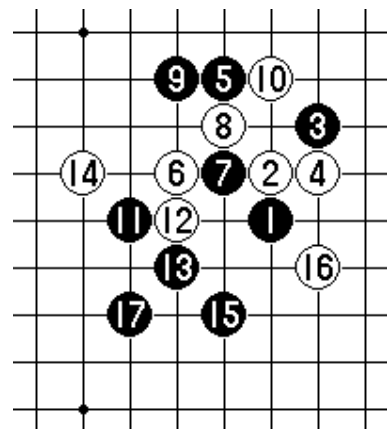
面が収録されたのだろうか、TV的に面白くない部分はカットされたのだろうか。実は私も20年以上前にTV出演したことがある。その時は「素人五目並べ選手権」の解説者として呼ばれ、早川、西園、長谷川、河村の4名で順番に努めた。私は3回担当し、4時にスタジオに入って5時から生放送に出演するという無茶ぶりであった。人生の中で最も緊張した経験であったので、おそらく今回の出演者もかなり緊張しただろう。TV出演はできればしたくない、とその時思ったので、まずはTVに出演しただけでもえらい、としたものだ。昨年の中村名人対決もTBSだったので、TBSからはこれからも声がかかるかもしれない。TV出演用の人材を連珠社は育てておく必要があるだろう（もちろんその第一候補は丸田四段だ）。

さて、5月に名人戦一次予選が行われ、残念ながら2勝2敗で通過はできなかった。その局をご紹介しよう。2局目の松井五段戦。



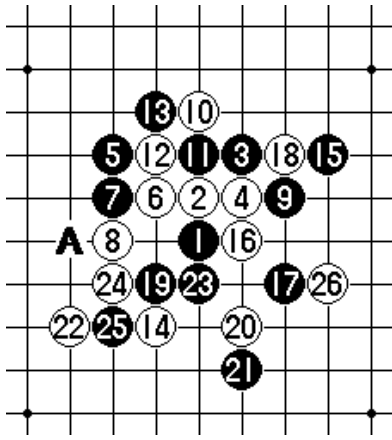
慎重に打って行ったのが逆に良くなかったかもしれない。黒19に打ったのが大変なボーンヘッドで、白20と打たれてしびれてしまいそのまま投了となった。黒19ではどこに打つても負けることはなかったし、17の上か下に打っておけば黒は完勝であっただろう。しかし、この19を打ってしまったのには伏線がある。

当初、黒15はこのように単に突き出そうとしていた。



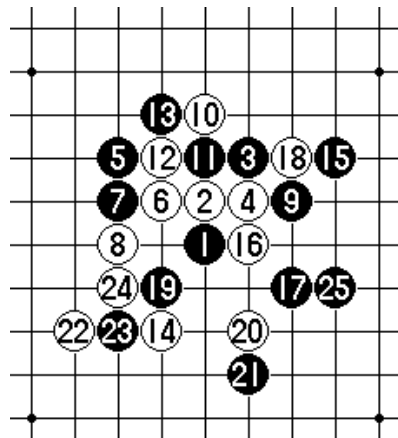
その時に白16なら黒17と呼手を打とうと考えていた。しかし、実戦のように黒15と白16の交換を入れた方がより良いと思えば、黒15と引いたのである。ところが今度はこの呼手は最悪の手に変わってしまったという訳である。状況の変化を感じ取れなかったのが悪いのだが、普段の対局ならここまで慎重にならないし、三々のミセ手も打つことはなかっただろう。やはり名人戦予選という状況が何かを起こしたのだろうか。

こうなると嫌な流れになったのは感じ取れた。しかしながら、3局目の田中二段には勝ったので、そこまですくはなかったようだ。そして最終局。チーム戦で真剣勝負を戦った影響か、帰国後負けのない飯尾さんとの対局となった。ここで負けると予選落ちだとは思ったが、あまり考えても仕方がない。飯尾さんには昨年のA級リーグ以来まったく歯が立たない。恐ろしいおじさんである。峡月八題を指定も、相手の知識に引き込まれる展開となった。

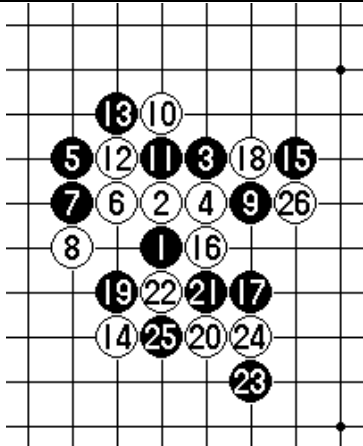


実は白14まで打たれた時、「あれ？黒15はどこだったっけ？」ととても名人戦予選とは思えない忘れっぷりを発揮した。それでも黒15を打ったのはかすかな記憶があったため、局中に気が付いたのだが、関西選手権挑戦手合いでの大角・飯尾戦と同じだった。その局は2か月前にそばで見っていたのにどうしても思い出せない。結局黒21で変わったのだが、当事者であった飯尾さんに強烈な手を打たれてしまった。白22がそれだが、ここでびびって黒23と止めに行ったら（つもり）が良くなかった。白24と欲張られ、ここで黒25と決死に防いでまだまだだと思っていたのだが、実は白26でAに引く手があった。下から取る手を見ていたのだが、何のことはない、白に四追い！がある。飯尾さんはすぐこのことに気づき「しまった」と言っていた

が、命拾いをしたにもかかわらず、終盤で押し切られてしまった。



黒23では図のように先に間に入っておけばまだまだ戦えた。白24なら黒25が含みになる。本局では23の地点が急所であった。



ちなみに、大角・飯尾戦は黒21と二を引いて黒23から叩いていた。なるほど、という手順だが、実戦では思いつかなかった。白26の後、黒は上辺で勝ちを出している。

とは言え、この形で黒が勝てるという訳ではない。正確に打てばおそらく満局になるだろうが、勝負がつくのが実戦の面白さでもある。冒頭でTV番組のことを述べたが、五目並べは簡単に勝負がつく場合が多いので、TV的にはもってこいだろう。もし囲碁でわんこそば混合競技をやったらえらいことになる。そういう視点からみると、連珠の魅力は我々が思っている以外にもいろいろある。「早く勝負がついてしかも見ている方も飽きない」という長所を生かす媒体がまだまだありそうだ。スマホにも相性が良いので、携帯ゲームをぜひ開発してほしい。